



つぐみケアマネジメント

佐藤 由紀代

SATOU YUKIYO

1973年 柏崎市出身

2019年 つぐみケアマネジメントを始める

昨年、柏崎市内で新しく居宅介護支援事業所を開所した人がいると聞いて取材をお願いした。「つぐみケアマネジメント」の佐藤由紀代さんだ。

居宅介護支援事業所とは、在宅の要介護者が適切に介護サービスを利用できるよう、在籍するケアマネージャーが要介護認定の申請やケアプラン（居宅サービス計画）作成を行う事業所である。佐藤さんは柏崎市出身。県外にある福祉系の短大を卒業後、障がい者支援施設や老人福祉施設、訪問介護など様々な施設や事業所でスキルを身に付け、10年ほど前にケアマネージャー（介護支援専門員）の資格を取得、キャリアを積んできた。

昨年、実家に戻ることを決めた佐藤さんは、せっかく地元に戻るのならば生まれ育った柏崎で居宅介護支援事業を立ち上げたいと独立を決意した。

かつての職場の先輩から、事業所開設のためのアドバイスを受け、少しずつ準備を始めたという。まずは合同会社を設立、昨年6月に「つぐみケアマネジメント」の開設にこぎつけた。

「つぐみ」の鳥言葉は「成長する心」。事業所と共に自分自身も成長していき

いと願いを込めた。

ケアマネージャーの仕事は、介護サービスが必要な人とサービス事業所をつなぐ調整役として、とても重要な役割を担っている。元々、人と接する仕事が好きだったと話す佐藤さんは、介護保険制度が始まった時にケアマネージャーという仕事を知り興味を持ったという。

ケアマネージャーは、例えば入院していた人が病院から退院する際、退院支援をする医療ソーシャルワーカーと共に、介護ベッドや車椅子、介護用具、訪問介護の要、不要を相談し、家族と本人の意向を踏まえてその人に合ったケアプランを作成する。本人や家族が何を望んでいるのかをくみ取り、利用者や家族が快適に生活できるように一緒に考えながらプランを組み立てるのが仕事である。

「苦労も多いが、本人や家族の笑顔に触れた時に大きなやりがいを感じた。微力ながら多くの人たちから協力いただけることに対して、いつもありがたいなと思いつつ仕事を続けてきた」。

地元に戻ることを機に独立を決めたのは自分自身への挑戦でもある。「地域のネットワークや人間関係を一つひとつ構築してみたい。いろんな業種の方と関係性を育み、人と人とのつながりをゼロから作ってみたい」と続ける。

今、佐藤さんは丁寧に踏み固めてきた道を一足、一足、着実に前へ向かって歩き始めている。



お問い合わせ

つぐみケアマネジメント

TEL 0257-47-7564

営業 8:30~17:30

休 土・日・祝